



Logic Pro X



nektar | IMPACT
GX49 | GX61

日本語ユーザーガイド

www.hookup.co.jp



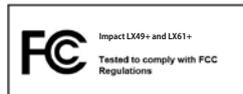
目次

イントロダクション	4
同梱内容.....	4
Impact GXの機能.....	4
システム条件.....	4
Impact GX概要	5
さあ始めましょう	6
接続と電源.....	6
Nektar DAWインテグレーション.....	6
汎用コントローラーとしての利用.....	6
キーボード、オクターブとトランスポーズ、ホイールとフットスイッチ	7
オクターブとトランスポーズシフト.....	7
オクターブボタンを使用したプログラム、MIDIチャンネルとプリセット操作.....	7
トランスポーズボタンを使用したプログラム、MIDIチャンネルとプリセット操作.....	7
ピッチバンドとモジュレーションホイール.....	7
フットスイッチ.....	7
MIDIソフトウェアの操作	8
設定 (Setup) メニュー	9
キャンセル - Cancel - C1.....	10
コントロール情報 (CC) 設定 - Control Assign - C#1.....	10
プログラムチェンジ設定 - Program Assign - D1.....	10
グローバルMIDIチャンネル - Global MIDI Ch - D#1.....	10
プログラムチェンジ送信 - Program Change - E1.....	10
バンクLSB - Bank LSB - F1.....	11
バンクMSB - Bank MSB - F#1.....	11
トランスポーズ設定 - Transpose - G1.....	11
キーボードベロシティカーブ - Velocity Curve - G#1.....	11
パニック (オールノートオフ) - Panic - A#1.....	12
トランスポーズボタンのオプション設定 - Transpose Buttons - C2 - D2.....	12
USBポート設定 - Port Setup - A2.....	12
ファクトリーリストア	13
DAW設定ガイド	14
Bitwig Studio.....	14
Cubase/Nuendo.....	16
Digital Performer.....	18
FL Studio.....	20
GarageBand.....	22
Logic X.....	23
Mixcraft 7.....	25
Reaper.....	26
Reason.....	28
Sonar.....	30
Studio One.....	32
Nektar DAWインテグレーションを使用しないトランスポートコントロール.....	34
Pro Tools.....	35

本製品を安全にご利用頂く為、水分や食物、液体などから遠ざけ、製品の動作に影響を及ぼす要素の混入を防止に努めてください。機器の外装保護の観点でもそのような環境でご利用のは避けてください。また本ガイドで解説する範囲内の用途でご利用頂くよう、お願い申し上げます。

注意：本製品は、クラスBのデジタル機器としてのFCC規制のPart 15への適合検査をパスしています。この制限によって、本製品は住宅に設置する際に有害な干渉を防止する適切な保護を提供するように設計されています。本製品は、指示に従って設置および使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があり、電波エネルギーを放射する可能性があります。ただし、特定の設置条件で干渉が発生しないという保証はありません。本製品の利用によって、ラジオやテレビの受信に干渉を起こした場合、ユーザーは次のいずれかの方法で干渉を解消します：

- 受信アンテナの向きや位置を変えます。
- 装置と受信機の距離を離します。
- 受信機が接続されているものとは別回路のコンセントに機器を接続します。
- 販売店または経験のある電気または電波技術者に相談します。



CALIFORNIA PROP65 WARNING: 米カリフォルニア州で策定されています製品の表示義務に従い、本製品は人体に影響を及ぼす可能性がある化学物質が使用されています。ただしこれは微量で、無視できるレベルです。またご利用上、問題のない範囲内にあります。

詳しい情報は：www.nektartech.com/prop65

Impactのファームウェア、ソフトウェア及びマニュアル等の書類はNektar Technology, Incの財産であり、ライセンス同意によりユーザーに提供されます。日本語に関する情報は、株式会社フックアップの資産であり、Nektar Technology, Incの許可を受けて作成しています。

© 2016 Nektar Technology, Inc. / HookUp, Inc.
NektarはNektar Technology, Inc. の登録商標です。

製品に関するすべての記述及び仕様は予告なく変更することがあります。

クリーニングとメンテナンスについて

- 修理に関するすべての作業は弊社認定の専門技師によって行われます。
- 本製品の外装をクリーニングする際は、乾いた柔らかい布またはブラシをご利用ください。
- クリーニング用の化学物や研磨剤は外装に損害を与える可能性がありますので、利用はご遠慮ください。

修理に関する情報はこちらをご覧ください：<https://hookup.co.jp/support/>

イントロダクション

この度は、Nektar Impact GX コントローラーキーボードをお求め頂き、誠に有難うございます。

Impact GXシリーズのコントローラーにはご用途に合わせて、異なる鍵盤数のモデル:49と61が用意されています。そして多くの主要DAWソフトウェアでご利用頂く為の設定ソフトウェアも付属します。このことで対応DAWの設定手順が簡略化され、これまでにない高いレベルの操作を実現します。NektarのDAWサポートによって、Nektar Impact GXとコンピューターの組み合わせによって、明快な操作と機能アクセスが可能になります。Impact GXをより効果的にご利用頂く為に、このガイドを一通りご覧頂くことをお勧めします。

またImpact LX+シリーズのコントローラーはユーザーカスタマイズ可能で、ユーザー自身でオリジナルの設定・構成を行うことが出来ます。Impact GXで音楽制作や演奏をより一層お楽しみ、お役立て出来れば幸いです。

同梱内容

Impact GXをお求め頂くと以下のアイテムが同梱されています：

- Impact GX コントローラーキーボード本体
- 印刷マニュアル(英語)
- USBケーブル
- 付属ソフトウェアのライセンスコードが記載されたカード
- 日本語のご案内等の書類

同梱物が不足、あるいは破損している場合、お手数ですがご購入店あるいは弊社サポートまでご連絡頂くよう、お願い申し上げます。

<https://hookup.co.jp/support/>

Impact GX の機能

- ベロシティ対応の49または61鍵のフルサイズキーボード
- 1x MIDI対応ロータリーノブ
- 7x トランスポートボタン
- シフトボタンによる追加機能アクセス
- ピッチベンドと設定変更可能なモジュレーションホイール
- オクターブシフトボタン(アップとダウン、LED照明内蔵)
- トランスポーズボタン(アップとダウン、LED照明内蔵+その他の機能操作)
- USBポート(USBバス電源対応)
- 電源スイッチ
- 1/4"フットスイッチ端子
- Apple USB Camera Connection KitによるiPad接続対応
- Nektar DAWインテグレーション

システム条件

Impact GXはUSBクラスコンプライアントのMIDI機器として、Windows XP以降またはMac OS X環境で扱えます。DAWインテグレーションはWindows 7/8/10以降、Mac OS X 10.7以降の環境でインストールすることが出来ます。

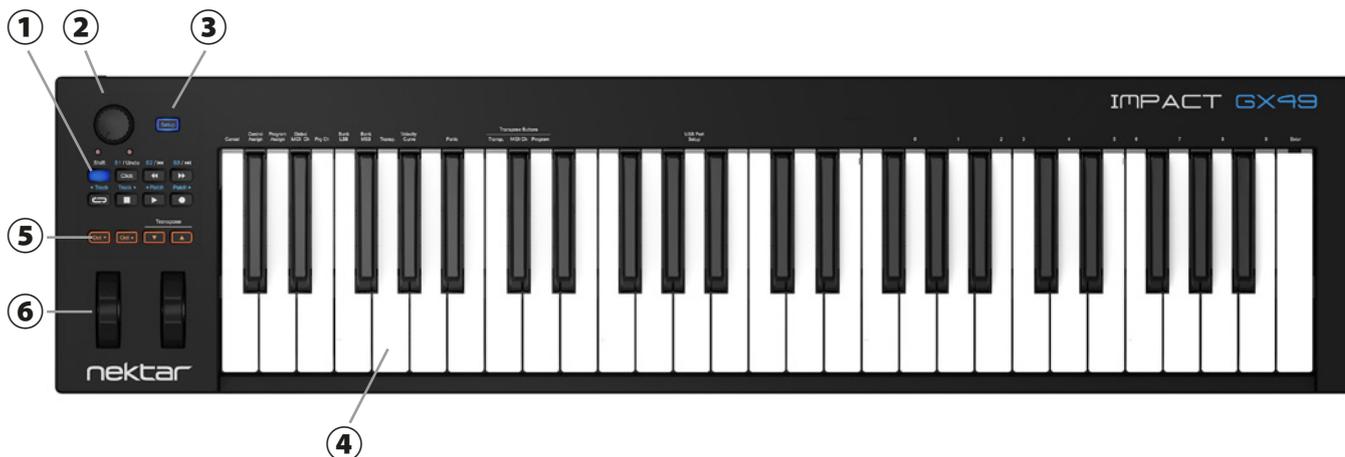
*システム条件内であってもすべての環境での動作を保証するものではありません。

*メーカーサポートが終了したシステム環境についてはサポート対応出来かねる場合があります。

*DAWインテグレーションは、ご利用のDAWソフトウェアのシステム条件も合わせてご確認お願い致します。

IMPACT GXの概要

Impact GXモデルの各部呼称とその概要です。この部分を飛ばさずにご確認頂くことをお勧めします。



- ① **トランスポートボタン**:7個のボタンはNektarインテグレーション時にDAWのトランスポート:再生、停止、録音などの操作に使用します。これらのボタンは、Shiftボタンとの併用で別の機能にアクセスします。
- ② **ロータリーノブ**:MIDIコントロールやDAWの操作に使用します。(MIDI設定の変更可能)
- ③ **設定ボタン**:設定モードに入る際に使用します。
- ④ **鍵盤**:ベロシティ対応のキーボードです。また、Setupメニュー時の設定メニューやパラメーター設定に使用します。GX49 = 49鍵、GX61 = 61鍵
- ⑤ **ピッチベンドとモジュレーションホイール**:左側はピッチベンド、右側のホイールは主にモジュレーション操作に使用します。(MIDI設定の変更可能)
- ⑥ **Octave (オクターブシフト)とTranspose (トランスポーズ) ボタン**:鍵盤の音域範囲のオクターブ変更とトランスポーズ操作に使用します。2つのオクターブまたはトランスポーズボタン(▼と▲)の同時押しで他の機能にアクセスします。(MIDI設定の変更可能)*88+はオクターブボタンの代わりにLayte(レイヤー)とSplit(スプリット)のゾーンボタンを装備
- ⑦ **Foot Switch (フットスイッチ) 端子**:別売のフットスイッチを接続する為の標準サイズ(1/4")の端子です。Impact LX+の電源投入時に極性を自動検知します。通常はサスティペダルのMIDI情報を扱います。(MIDI設定の変更可能)
- ⑧ **USB端子**:コンピューターと接続する為の標準サイズのUSB端子です。このポートでコンピューターとのデータ転送とコンピューターからの電源供給を受けます。
- ⑨ **Power On/Off(電源)スイッチ**:Impact LX+本体の電源のオン・オフをします。
- ⑩ **Kensington(ケンジントン)ロック**:本体バックパネル右端のポートは、市販のKensingtonロックに対応したポートです。盗難防止に使用します。



さあ、始めましょう

接続と電源

Impact GXはUSBクラスコンプライアントに準拠したMIDI機器です。その為、特別なドライバーソフトウェアのインストールなく、WindowsやOS X標準のドライバーで動作し、コンピューターに接続するだけで認識され、使用することが出来ます。また、動作に必要な電源は、コンピューターのUSBポートから供給されます。

接続方法と手順はとても簡単です：

- 付属のUSBケーブルを使用して、Impact GXとコンピューターを接続します。
- サスティンペダルを使用する場合、Impact GXのフットスイッチ端子に接続します。
- 電源スイッチをオンにします。

初めてコンピューターに接続した場合、Impact GXの認識に少し時間を要します。認識されましたら、DAWの為の設定をします。

Nektar DAWインテグレーション

ご利用のDAWソフトウェアがNektar DAWインテグレーションに対応している場合、専用の設定ソフトウェアをご用意していますので、ダウンロードの上インストールをします。このことで、シンプルな設定で高度なDAWコントロールを実現します。

設定ソフトウェアのダウンロードは弊社ウェブサイトからダウンロード出来ます。

<https://hookup.co.jp/support/>

最新版のサポートファイルをいち早く入手するにはNektar社のウェブサイトに登録が必要です(英語でのサービス提供になります)：

www.nektartech.com/registration

重要なお知らせ：設定に関する情報はウェブページやPDFファイルとして公開しています。インストールと設定をする際はご確認頂くようお願い申し上げます。

Impact GXを汎用のMIDIコントローラーとして利用する場合

Impact GXは汎用のMIDIコントローラー・キーボードとして、OSX、Windows、iOS、Linux環境でご利用頂けます。いくつかのソフトウェアでは追加ファイルをコンピューターまたはImpact GX本体にインストールすることで連動することが出来ます。

キーボード、オクターブとトランスポーズボタン、ホイールとフットスイッチ

Impact GXの鍵盤はペロシティ対応で、ダイナミックな演奏が可能です。ご自身の好みや音源に合わせて4種類のペロシティカーブが用意されています。また、これとは別に3段階の固定ペロシティを選ぶことも可能です。

少しの時間をかけてご自身の演奏スタイルに合わせてデフォルトのペロシティカーブを設定することをお勧めします。多くの音源はそれ自体にペロシティカーブ設定が用意されていますので、二重の設定によって設定が煩雑にならないよう、まずはImpact GXのペロシティカーブを設定し、あとはこれを変更せず、特定の音色に対してタッチの変更が必要な場合は、音源側で設定をします。Impact GXのペロシティカーブ設定の手順や詳細についてはこのガイドの11ページに記載しています。

オクターブ (Octave) とトランスポーズ (Transpose) シフト

鍵盤の左横には、キーボードの音域を変えるOctaveとTransposeシフトボタンが用意されています。

- 左側のOct - ボタンを押すことでキーボードの音域を1オクターブ下げます。
- 右側のOct + ボタンを押すことでキーボードの音域を1オクターブ上げます。
- 左側のTranspose ▼ ボタンを押すことでキーボードの音域を半音下げます。
- 右側のTranspose ▲ ボタンを押すことでキーボードの音域を半音上げます。
- ボタン操作を繰り返すことで、そのボタン機能に応じて音域をさらに上下させることが出来ます。

ボタン操作による範囲はImpact GXのモデルによって異なります。49鍵モデルでは、下3オクターブ/上4オクターブにシフトすることが出来ます。61鍵モデルでは、上下3オクターブにシフトすることが可能です。いずれのモデルもMIDI規格のノートの範囲(127ノート)をすべて網羅します。

オクターブシフトをした際、LEDの色でオクターブの状況を確認出来ます：

シフト無し：両方のオクターブボタンが点灯します	+1: OCT + ボタンがオレンジ色に点灯します
-1: OCT - ボタンがオレンジ色に点灯します	+2: OCT + ボタンが緑色に点灯します
-2: OCT - ボタンが緑色に点灯します	+3: OCT + ボタンが赤色に点灯します
-3: OCT - ボタンが赤色に点灯します	+4: OCT + ボタンが黄色に点灯します

Transposeボタンはモデルに関わらず最大で上下12半音=1オクターブの変更が可能です。Transposeボタンで1オクターブ変更した場合、それに従ってOctaveボタンの操作範囲が制限されます。これはキーボードで演奏可能領域がMIDI規格のノートの範囲の逸脱しない為の措置です。

トランスポーズを設定した場合、2つのTransposeボタンを同時に押すことで、設定をリセットに出来ます。

ピッチベンドとモジュレーションホイール

OctaveとTransposeボタンの下には2つのホイールが用意されています。左側のホイールはピッチベンド、右側のホイールは主にモジュレーション操作に使用します。

ピッチベンドホイールのMIDIのピッチベンド情報を操り、演奏ノートの音程を上昇または下降させる操法の時に使用します。このホイールはバネにより手を離すとセンターに戻るようになっています。ベンドレンジはこの情報を受け取る音源側で設定をします。

モジュレーションホイールは、MIDIのコンティニューアスクンローラー (CC) の情報を送信します。一般的にはビブラート (LFO) の深さやフィルターの開閉に使用されます。音源によってはダイナミクスコントロール、エフェクトの深さの操作をする場合もあり、その用途は様々です。通常、このホイールはMIDI規格で定められたModulation (MIDI CC #1) を扱いますが、別のMIDI情報に設定変更することも可能です。

いずれのホイールもデフォルト設定から別のMIDI情報に設定を扱うように変更することが可能で、これらの設定は、Impact GXの電源を落としても保持されます。

フットスイッチ

Impact GXはフットスイッチ (Foot Switch) 端子を装備し、別売のフットスイッチを接続してサスティンペダルなどとして使用出来ます。接続端子は標準の1/4"プラグに対応します。この端子に市販のフットスイッチを接続出来ますが、フットスイッチの極性は自動検知しますので、以下の手順で接続をします：

- Impact GXの電源をオフにします。
- フットスイッチを接続します。
- Impact GXの電源をオンにします。

MIDIソフトウェアの操作

Impact GXはDAWやMIDIソフトウェアを柔軟に扱えるように設計されています。豊富なコントロールと多彩な機能を快適に利用する為、ご使用のソフトウェアや環境に合わせて設定をする必要があります。ご利用環境に適した設定手順がどれかを確認します：

1. DAWに対して、ImpactのDAWインテグレーションファイルをインストールして設定します。(公表されている対応DAWのみ)
2. DAW (や音源) のラーン (コントロール信号の学習) 機能で設定をします。
3. Impact GXのコントロールをご利用のソフトウェアに合わせて設定をします。

Nektarが用意されたDAWインテグレーションファイルを使用する場合、ウェブサイトおよび設定ファイルに同梱のPDFガイドの記載に従ってインストールと設定をします。

トランスポートボタン

Impact GXのトランスポートボタンはDAWインテグレーション対応のDAWの操作に使用します。再生、停止などの基本的な操作以外に、Shiftボタンの併用で、トラックやプラグインのプリセット切替え、その他のスイッチ操作に使用出来ます。詳しくは各DAWのガイドの項目に記載しています。



トランスポートボタン

Impact GXのトランスポートボタンはDAWインテグレーションしていない場合、纯粹にMIDIスイッチとして機能し、Shiftボタンとの併用で合計14のスイッチとして機能します。

これらのスイッチは通常ソフトウェア側のMIDIラーン機能で設定した方が明快で即座にご利用頂けますが、必要に応じてImpact GXの設定メニュー (Setup) でお好みのMIDI情報を割当てすることも可能です。

ロータリーノブ

本体左上のロータリーノブは、MIDIコントローラーとして使用します。通常はボリューム操作に適したMIDI CC#7が設定されていますが、設定メニューで変更することが可能です。

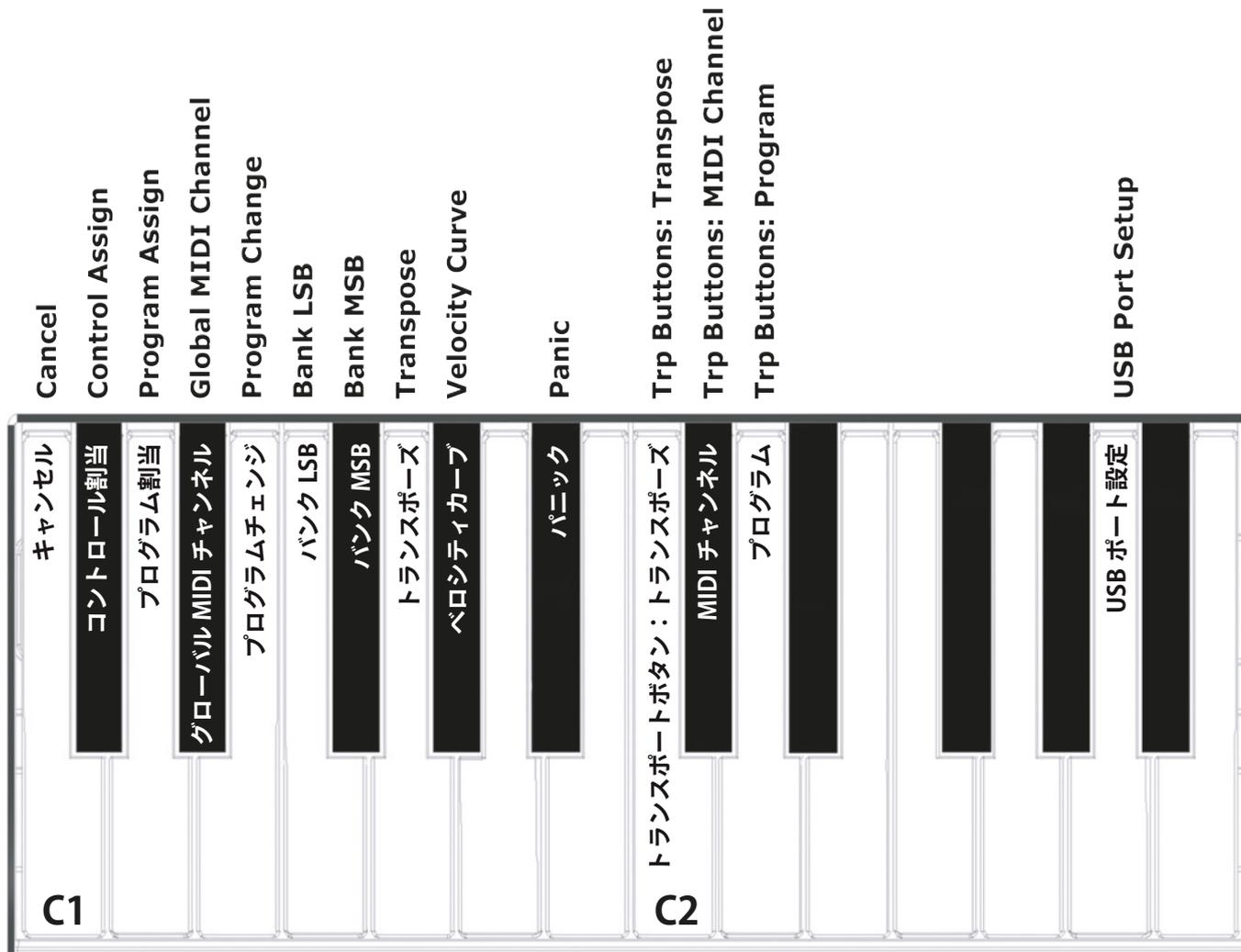
DAWインテグレーションした際は、主に選択トラックのボリューム操作をします。この場合、ノブ下のLEDが機能し、ソフトウェア上の値とノブポジションの関係を示します。



設定 (Setup) メニュー

Setupメニューは、コントロール割当、プリセットの選択と保存、ペロシティカーブの変更など、様々な追加機能にアクセスします。メニューに入って設定をするには、SETUPボタンを押し、パネル上に印字された箇所の鍵盤操作で行います。この際、キーボードからのMIDIノート信号はミュートされます。

下図はメニューと鍵盤の関係をあらわします。画像上の記載は、鍵盤上の日本語 = メニュー概要、英語 = パネル上の印字、カッコ内のテキスト = ディスプレイ表示をあらわします。



Impact GXのモデルによって、メニュー鍵盤の位置は異なります。メニューの箇所は実際にImpact GX本体のパネル印字をご確認ください。

メニュー鍵盤は2つのグループに大きく分けられます。最初のグループはC1-G#1に位置し、一般的な設定メニューにアクセスします。これらのメニューはアクセスをすると待機状態で、実際に操作をすることで設定が行われます。もし、設定をせずに中止をしたい場合、Cancelキー (C1) を押します。メニューを終了するには再度Setupボタンを押します。(多くのメニューでは設定後自動で設定メニューが解除されます。)

二番目のメニューグループはC2-D2に位置し、トランスポーズボタンのオプションを設定します。

各メニューの詳細はこの後のページにて解説をします。ただし、これらの記述はMIDIに関してご理解頂いていることを前提としています。もしMIDIの役割、用語や基礎的な知識に関してご不明の場合は、コントロール設定をされる前にMIDIに関する理解を深められることをお勧めします。ご利用のソフトウェアのMIDIに関する記述を確認されるのは、用語や役割など必要な知識を知るきっかけとして、有効な手段の一つです。

Setupメニューに入ると鍵盤のMIDIノート出力はミュートされ、メニューアクセスと設定に使用されます。

以下、各メニューの詳細と設定方法です。

設定のキャンセル - Cancel - 鍵盤:C1

Enterキー (C5) で確定する前の設定した値をキャンセルする際に使用します。

コントロール情報 (CC) 設定 - Control Assign - 鍵盤:C#1

このメニューは選択したコントローラーのMIDI CCの変更に使用します。(適用可能なコントローラーのみ)

Impact GX上のコントローラーの殆どがMIDI CCの設定に対応します。設定方法は以下の通りです:

- 鍵盤:C#1 (Control Assignとパネル印字) を押します。
- 目的のコントローラーを操作します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤:G3 - B4 (GX49) / G4 - B5 (GX61) で入力し、右端の鍵盤:C5/C6 (Enterとパネル印字) で目的のMIDI CC#を設定します。

プログラムチェンジ設定 - Program Assign - 鍵盤:D1

MIDIプログラムチェンジを送信します。プログラムチェンジは特定のタンで行うことも可能です。設定方法は以下の通りです:

- 鍵盤:D1 (Program Assignとパネル印字) を押します。
- 目的のコントローラー (ボタン) を操作します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤:G3 - B4 (GX49) / G4 - B5 (GX61) で入力し、右端の鍵盤:C5/C6 (Enterとパネル印字) で目的のプログラム番号を設定します。

注意: 機器によってはプログラム番号の表示方法が異なります。0 -127ではなく、1-128の表示を使用する場合、MIDIプログラムチェンジの0 = 機器のプログラム1番、つまり"1"を足した番号の呼び出しになることを覚えておきましょう。

MIDIチャンネル設定 - Global MIDI Channel - 鍵盤:D#1

Impact GXのMIDIチャンネルを設定手順は以下の通りです:

- 鍵盤: D#1 (パネル印字 = Global MIDI Ch) を押します。
- 設定値:000はグローバルMIDIチャンネル設定になります。殆どのコントローラーのデフォルト設定はグローバルMIDIチャンネルになっています。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤:G3 - B4 (GX49) / G4 - B5 (GX61) で入力し、右端の鍵盤:C5/C6 (Enterとパネル印字) でMIDIチャンネル (1 -16) を設定します。

プログラムチェンジ送信 - Program Change - 鍵盤:E1

設定メニューでは以下の操作で、プログラムチェンジを直接送ることが出来ます:

- 鍵盤: E1 (パネル印字 = Prg Ch) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤:G3 - B4 (GX49) / G4 - B5 (GX61) で入力し、右端の鍵盤:C5/C6 (Enterとパネル印字) で目的のプログラム番号を設定します。
- これでプログラムチェンジが送信され、Setupメニューは自動で解除されます。

注意: 機器によってはプログラム番号の表示方法が異なります。0 -127ではなく、1-128の表示を使用する場合、MIDIプログラムチェンジの0 = 機器のプログラム1番、つまり"1"を足した番号の呼び出しになることを覚えておきましょう。

バンク LSB - Bank LSB - 鍵盤:F1

この機能はMIDIのバンクチェンジ (LSB) を扱い、プログラムチェンジと共に音色プリセットの呼び出しに使用します。ただし、プログラムチェンジと同様、多くのソフトウェア音源はバンクチェンジに対応していません。主にハードウェアのMIDI音源や機器に使用します。以下、バンクLSBの操作方法になります：

- 鍵盤：F1 (パネル印字 = Bank LSB) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：G3 - B4 (GX49) / G4 - B5 (GX61) で入力し、右端の鍵盤：C5/C6 (Enterとパネル印字) で目的のプログラム番号を設定します。
- これでプログラムチェンジが送信され、Setupメニューは自動で解除されます。

注意：機器によってはバンクチェンジを送信した後、プログラムチェンジを送る必要があります。また、機器によって番号の表示方法が異なります。0 - 127ではなく、1-128の表示を使用する場合、MIDIバンクチェンジの0 = 機器の最初のバンク、つまり"1"を足した番号の呼び出しになることを覚えておきましょう。

バンク MSB - Bank MSB - 鍵盤:F#1

この機能はMIDIのバンクチェンジ (MSB) を扱い、プログラムチェンジと共に音色プリセットの呼び出しに使用します。ただし、プログラムチェンジと同様、多くのソフトウェア音源はバンクチェンジに対応していません。主にハードウェアのMIDI音源や機器に使用します。以下、バンクMSBの操作方法になります：

- 鍵盤：F#1 (パネル印字 = Bank MSB) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：G3 - B4 (GX49) / G4 - B5 (GX61) で入力し、右端の鍵盤：C5/C6 (Enterとパネル印字) で目的のプログラム番号を設定します。
- これでプログラムチェンジが送信され、Setupメニューは自動で解除されます。

トランスポーズ設定 - Transpose - 鍵盤:G1

設定メニューでは以下の操作で、トランスポーズを設定することが出来ます：

- 鍵盤：G1 (パネル印字 = Prg Ch) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：G3 - B4 (GX49) / G4 - B5 (GX61) で入力し、右端の鍵盤：C5/C6 (Enterとパネル印字) で目的の値 (-12 - +12) を設定します。この際、"0"とラベル印字された鍵盤でマイナス設定をします。例えば、-1を設定する場合、0 > 1 > Enterの順番に鍵盤をします。+1の場合は1 > Enterの順番に鍵盤を操作します。
- これでトランスポーズが設定され、Setupメニューは自動で解除されます。

キーボードベロシティカーブ - Velocity Curve - 鍵盤:G#1

Impact GXの鍵盤は、演奏タッチに合わせて4種類のベロシティカーブと3つの固定ベロシティを選ぶことが出来ます。下表は各設定に関する情報です：

カーブ	概要
Normal / ノーマル	中間から高いベロシティが強調される一般的なカーブです。
Soft / ソフト	最もダイナミック (強いタッチが必要) なカーブです。
Hard / ハード	柔らかいタッチで簡単に高いベロシティを出力するカーブです。
Linear / リニア	打鍵通りのベロシティをそのまま出力します。
127 Fixed / 127固定	打鍵の強さに関わらず、ベロシティ値: 127 (最大) を出力します。
100 Fixed / 100固定	打鍵の強さに関わらず、ベロシティ値: 100を出力します。
64 Fixed / 64固定	打鍵の強さに関わらず、ベロシティ値: 64 (中間値) を出力します。

ベロシティカーブの設定手順は以下の通りです：

- 鍵盤：G#1 (パネル印字 = Velocity Curve) を押し、画面表示が設定値になっているのを確認します。(値 = 上表参照)
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：G3 - B4 (GX49) / G4 - B5 (GX61) で入力し、右端の鍵盤：C5/C6 (Enterとパネル印字) で目的の値 (1- 7) を設定します。
- これでトランスポーズが設定され、Setupメニューは自動で解除されます。

パニック(オールノートオフ) - Panic - 鍵盤:A#1

Panic機能はすべてのMIDIチャンネルにオールノートオフとリセットオールコントローラーの情報を送信する際に、使用します。この機能は、音源が鳴りっぱなしになるなどのトラブルの際に使用します。実行するには、Setupメニューに入り、A#1の鍵盤(パネル印字 = Panic)を押します。情報送信後、Setupメニューは自動解除されます。

トランスポーズボタンのオプション設定 - Transpose Buttons - 鍵盤:C2-D2

OctaveボタンをMIDIプログラム情報の送信、グローバルMIDIチャンネルの変更に使用出来ます。目的の機能にアクセスする為のボタン操作手順は以下の通りです:

- Setupボタンを押し、設定メニューに入ります。
- 目的の鍵盤(C2 - D2)を押して、トランスポーズボタンの機能を設定します。
- 右端の鍵盤:C5/C6(Enterとパネル印字)で設定を確定します。
- これでトランスポーズが設定され、Setupメニューは自動で解除されます。

鍵盤	機能	設定値
C2	トランスポーズシフト(通常機能)	±12半音(semitone)
C#2	MIDIプログラムチェンジ情報の送信	0 - 127
D2	グローバルMIDIチャンネルの変更	1 - 16

*MIDIプログラムチェンジは主にハードウェア音源の音色プリセットの切替に使用します。

USBポート設定 - USB Port Setup - 鍵盤:A2

Impact GXは1つの物理USBポートを装備していますが、コンピューターでは2つのUSB MIDIポートを持つデバイスとして認識されます。メインのポートは鍵盤からのノート情報、汎用のコントローラー情報を扱い、追加ポートは必要に応じてDAWソフトウェアで使用します。この設定は、特定のDAWソフトウェアに対して行います。設定が必要な場合、その手順含めウェブサイトおよびPDF版のDAW設定ガイドにてご案内をいたします。

ファクトリーリストア

以下の操作でImpact GXを工場出荷時の状態に戻すことができます：

- 2つのオクターブボタン(OCT- と OCT+) を押しながら、Impact GXの電源を投入します。
- リセットを確実にする為、電源投入後、ボタンを約3秒ほど、押したままにします。

この操作は、最初から設定をし直す際に便利です。

DAW設定ガイド - Bitwig

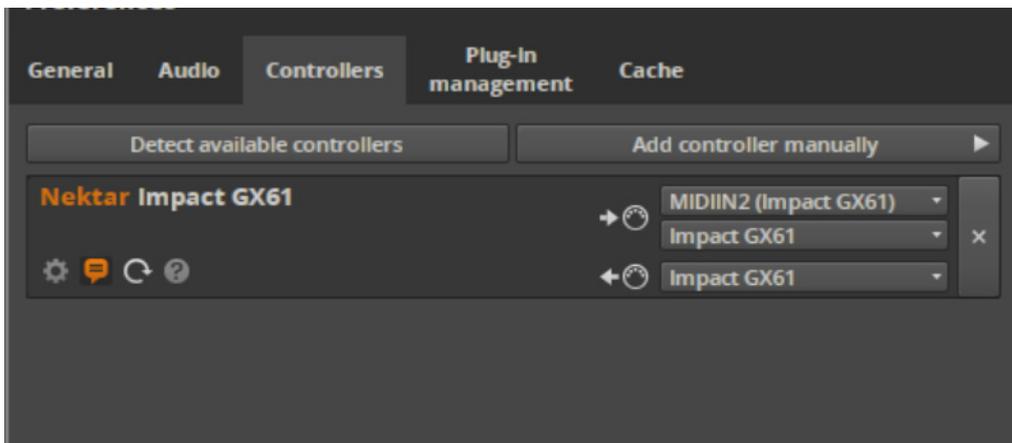
Impact GXはBitwigインテグレーションファイルで、Bitwig Studio及びBitwig 8-Trackと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。また、Linux環境でも扱うことが可能です。

設定

Impact GXとBitwig Studio、Bitwig 8-Trackの設定は以下の通りです：

- まず、Bitwigのインストールを完了し、最低でも一度起動しておきます。これはBitwig自体の動作に必要なファイルをインストールする為の必須作業です。
- 次にBitwigを終了した状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GX_Bitwig_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact GXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Bitwigを起動し、Optionsメニューから、Preferencesを選び、Controllersタブを開きます。
- “Detect available controllers”をクリックし、自動検知でImpact GXを設定します。
- 完了したら、“OK”ボタンをクリックし、デバイス設定を終了します。

画面例のようになっていれば、設定完了です。



DAW設定ガイド - Bitwig と Impact GX

インストール、設定を完了したらImpact GXを使用して、Bitwig StudioまたはBitwig 8-Trackで以下の操作が行えます。

下表はBitwigの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	ミキサーレーンを開く・閉じる	Shift + Click	アンドゥ (Undo)
⏮	1小節巻戻し	S2	デバイスチェーンを開く・閉じる	Shift + ⏮	左ロケーターに移動
⏭	1小節早送り	S3	ブラウザーを開く・閉じる*	Shift + ⏭	右ロケーターに移動
🔄	サイクル (ループ) オン・オフ	◀ Track	トラック選択一つ前	Shift + 🔄	左ロケーターを設定
■	停止、再操作でゼロポジションに戻る	Track ▶	トラック選択一つ次	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	選択デバイスのパッチ一つ前を選ぶ	Shift + ▶	オーバーダブモードランチャー (Launcher)
●	録音	Patch ▶	選択デバイスのパッチ一つ次を選ぶ	Shift + ●	オーバーダブモードアレンジャー (Arranger)

*選択トラックにデバイスが設定されている場合のみ機能します。

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、Bitwigのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらノブを操作することで、Bitwigのマスターボリュームを操作します。

ソフトテイクオーバー

通常、Bitwigのミキサーボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプをします。Impact GXではこの現象を防ぐ為にソフトウェアテイクオーバー機能を装備します。このことによって、ノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまでパラメーターに操作が適用されることはありません。

ノブ下の2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーター値がノブポジションと一致しない場合、左右のいずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切替えた場合、LEDの状態はそれに合わせて更新されます。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

DAW設定ガイド - Cubase/Nuendo

Impact GXはCubaseインテグレーションファイルで、バージョン5以降のCubaseと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。ここではCubaseで解説をしていますが、Nuendoでも同様の設定し、ご利用いただけます。

設定

Impact GXとCubaseの設定は以下の通りです：

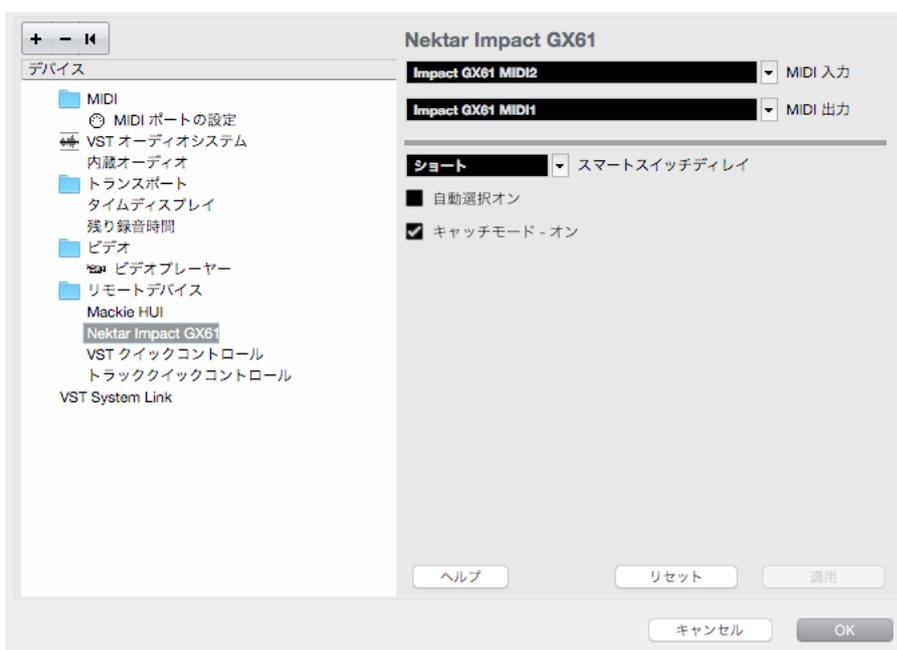
- Cubaseを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル: Impact_GX_Steinberg_supportのインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- Impact GXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Cubaseを起動し、デバイス > デバイス設定 > MIDIポートの設定を開きます。
- Impactの二番目の入力ポート (Windows = "MIDIIN2 (IMPACT GX)"、Mac = "Impact GX Port 2") で、"In 'All' MIDI"欄のチェックを外します。(Xがない状態)
- Impactがリモートデバイスの箇所にリストに表示されていることを確認します。
- 正しく設定されていることを確認したら、"OK"ボタンをクリックしてデバイス設定を閉じます。

正しく設定されると画面例のように表示されます。

Windows



OS X



DAW設定ガイド - Cubase/Nuendo と Impact GX

インストール、設定を完了したらImpact GXを使用して、CubaseまたはNuendoで以下の操作が行えます。

下表はCubase/Nuendoの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	ミキサーの表示・非表示	Shift + Click	アンドゥ (Undo)
⏮	1小節巻戻し	S2	インストゥルメントを開く・閉じる	Shift + ⏮	左ロケーターに移動
⏭	1小節早送り	S3	チャンネルストリップを開く・閉じる	Shift + ⏭	右ロケーターに移動
🔄	サイクル (ループ) オン・オフ	◀ Track	トラック選択一つ前	Shift + 🔄	左ロケーターを設定
■	停止、再操作でゼロポジションに戻る	Track ▶	トラック選択一つ次	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	インストゥルメントパッチ切替:一つ前*	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	インストゥルメントパッチ切替:一つ次*	Shift + ●	オーバーダブモード

*パッチ切替機能は、対応しないVSTインストゥルメントが存在します。殆どのSteinbergプラグインは対応していますが、すべてのメーカーがこの規格に準拠しているわけではございませんのでまずは、標準装備のプラグインでご確認ください。

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、Cubaseのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらノブを操作することで、Cubaseのマスターボリュームを操作します。

ソフトテイクオーバー

通常、Cubaseのミキサーボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプをします。Impact GXではこの現象を防ぐ為にソフトウェアテイクオーバー機能を装備します。このことによって、ノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまでパラメーターに操作が適用されることはありません。

ノブ下の2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーター値がノブポジションと一致しない場合、左右のいずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切替えた場合、LEDの状態はそれに合わせて更新されます。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

DAW設定ガイド - Digital Performer

Impact GXはMOTUインテグレーションファイルで、バージョン8以降のDigital Performerと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。

設定

Impact GXとDigital Performerの設定は以下の通りです：

- Digital Performerを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル:Impact_GX_MOTU_supportのインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- Impact GXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Digital Performerを起動し、プロジェクトの作成、もしくは既存プロジェクトを開きます。
- セットアップメニューからコントロールサーフェスの設定...を開きます。
- “+”アイコン(アウトポートの右横)をクリックし、デバイスを追加します。
- “ドライバ”の項目から、Nektar Impact GXを選択します。
- “ユニット”の箇所はMulti MIDIを設定します。
- “インポートポート”に二番目のポート (Windows = MIDIIN2 (Impact GX)、Mac = Impact GX Port 2-16) を設定します。
- “アウトポートポート”は一番目のポート (Windows = Impact GX49、Mac = Impact GX49 Port 1) を設定します。
- 完了したら、“OK”をクリックしてコントロールサーフェス設定画面を閉じます。

正しく設定されると画面例のように表示されます。

Windows

コントロールサーフェス



OS X



DAW設定ガイド - Digital Performer と Impact GX

インストール、設定を完了したらImpact GXを使用して、Digital Performerで以下の操作が行えます。

下表はDigital Performerの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	ミキサーを開く・閉じる	Shift + Click	アンドウ (Undo)
⏮	巻戻し 再操作で停止	S2	インストゥルメントを開く・閉じる	Shift + ⏮	左ロケーターに移動
⏭	早送り 再操作で停止	S3	設定なし	Shift + ⏭	右ロケーターに移動
🔄	サイクル (ループ) オン・オフ	◀ Track	トラック選択 一つ前	Shift + 🔄	左ロケーターを設定
■	停止	Track ▶	トラック選択 一つ次	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	インストゥルメント パッチ切替:一つ前	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	インストゥルメント パッチ切替:一つ次	Shift + ●	オーバーダブモード

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、Digital Performerのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

メモ: Digital Performerではインストゥルメントのボリュームパラメーターの操作は出来ませんが、MIDI CC#7を送信し、ボリュームのMIDIコントロールが可能です。この場合、ボリューム情報はインストゥルメントトラックのボリュームオートメーションではなく、MIDIトラックのMIDI CCとして記録されます。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらノブを操作することで、Digital Performerのマスターボリュームを操作します。

ソフトテイクオーバー

通常、Digital Performerのミキサーボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプをします。Impact GXではこの現象を防ぐ為にソフトウェアテイクオーバー機能を装備します。このことによって、ノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまでパラメーターに操作が適用されることはありません。

ノブ下の2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーター値がノブポジションと一致しない場合、左右のいずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切替えた場合、LEDの状態はそれに合わせて更新されます。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

DAW設定ガイド - FL Studio

Impact GXはバージョン11.2以降のFL Studioと連動し、Windows 7以降の環境で動作します。もし、Controller Typeのリストで"Nektar Impact Series"が表示されない場合は、FL Studioをアップデートしてください。

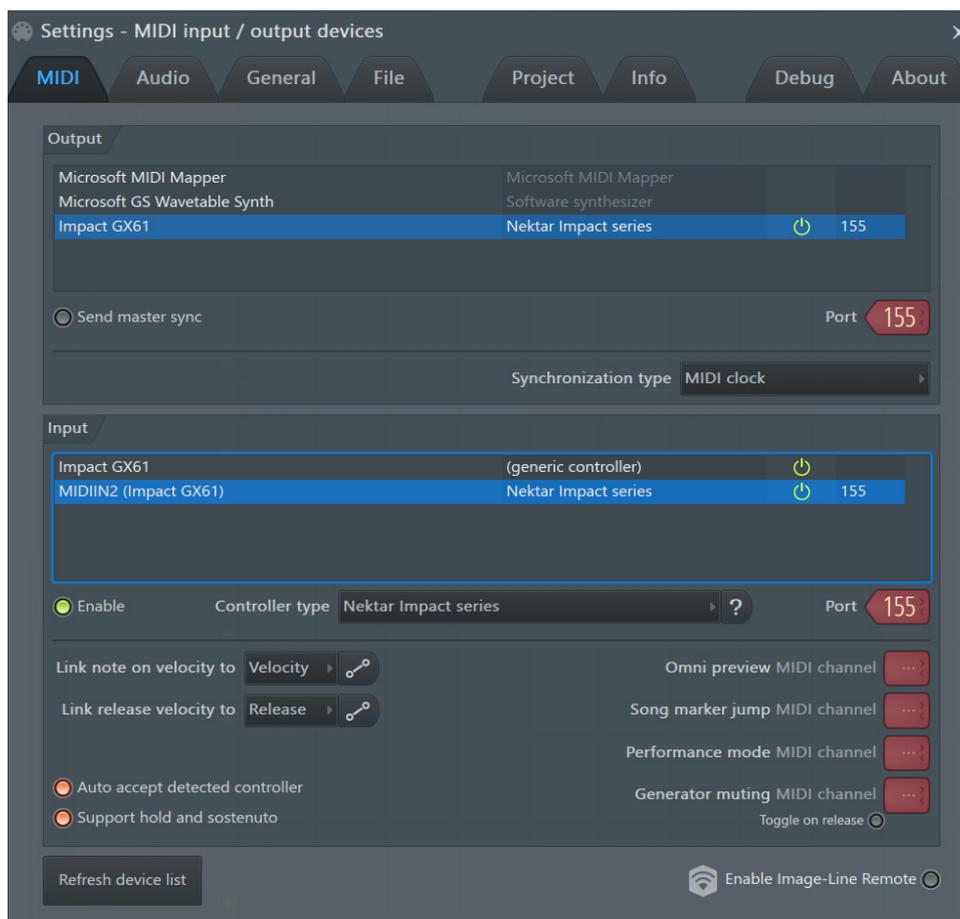
設定

Impact GXとCubaseの設定は以下の通りです：

- Impact GXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- FL Studioを起動し、OptionsメニューからMIDI Settingsを開きます。
- Impact GXノポートを画面例の通りに設定されます。ポートが表示されない場合は画面下の"Rescan devices"をクリックします。
- IMPACT GXの出力ポートを"155"に設定します。
- IMPACT GXの入力ポートを有効(Enable)にし、Controller Typeを“(generic controller)”に設定します。
- 二番目の入力ポート：MIDIIN2 (IMPACT GX49)も有効にし、Controller Typeを"Nektar Impact series"*、portを"155"に設定します。
- 画面例の通りに設定したら、画面を閉じて、MIDI設定を終了します。

これで設定は完了です。コントローラーを操作して正しく設定されているかどうか確認をします。

*もし、“Nektar Impact series”がController Typeのリストに無い場合、FL Studioをアップデート(もしくはアップグレード)する必要があります。



DAW設定ガイド - FL Studio と Impact GX

インストール、設定を完了したらImpact GXを使用して、FL Studioで以下の操作が行えます。

下表はFL Studioの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	設定なし	S1	ミキサーを開く・閉じる	Shift + Click	設定なし
◀	巻戻し	S2	インストゥルメントを開く・閉じる	Shift + ◀	低速再生
▶	早送り	S3	設定なし	Shift + ▶	高速再生
↺	サイクル(ループ)オン・オフ	◀ Track	ミキサートラック選択一つ前	Shift + ↺	設定なし
■	停止	Track ▶	ミキサートラック選択一つ次	Shift + ■	アンドゥ(Undo)
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	チャンネル選択一つ前	Shift + ▶	メトロノームオン・オフ
●	録音	Patch ▶	チャンネル選択一つ次	Shift + ●	前面(フォーカス)以外の画面を閉じる

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、FL Studioのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

DAW設定ガイド - GarageBand

Impact GXのAppleインテグレーションはバージョン6以降のGarageBandと連動します。

設定

Impact GXとGarageBandの設定は以下の通りです：

- GarageBandを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル:Impact_GX_Apple_supportのインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- Impact GXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- GarageBandを起動し、新しいプロジェクトを作成します。
- オーディオまたはソフトウェア音源トラックを作成します。

以上で設定完了です。

GARAGEBANDの操作

インストール、設定を完了したらImpact GXを使用して、GarageBandで以下の操作が行えます。

下表はGarageBandの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	ライブラリを開く・閉じる	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
⏮	巻戻し、1小節または継続	S2	Apple Loopsを開く・閉じる	Shift + ⏮	ループを前に
⏭	早送り、1小節または継続	S3	スマートコントロールを開く・閉じる	Shift + ⏭	ループを先に
🔄	サイクル(ループ)オン・オフ	◀ Track	トラック選択一つ上	Shift + 🔄	左ループポイントを設定*
■	停止	Track ▶	トラック選択一つ下	Shift + ■	右ループポイントを設定*
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	インストゥルメントパッチ切替:一つ前	Shift + ▶	アルペジエーターオン・オフ
●	録音	Patch ▶	インストゥルメントパッチ切替:一つ次	Shift + ●	設定なし

*ループ/サイクルエリアが既に設定されている場合のみ機能します。

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、GarageBandのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらノブを操作することで、GarageBandのマスターボリュームを操作します。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

DAW設定ガイド - Logic

Impact GXのAppleインテグレーションはバージョン8以降のLogicと連動し、OS X 10.6以降の環境で動作します。

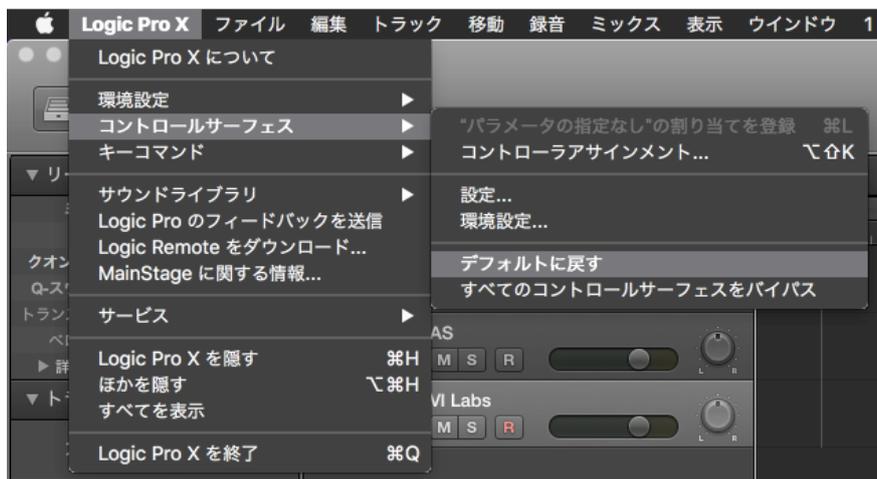
設定

Impact GXとGarageBandの設定は以下の通りです：

- Logicを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル:Impact_GX_Apple_supportのインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- Impact GXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Logicを起動し、プロジェクト、そして最低でもトラックを一つ作成します。
- Logicは初回起動時にコントロールサーフェスの画面を表示します。画像例のように表示されていれば、正しくインストールされたことになりますので、問題がなければ画面を閉じます。
- 念のために“Logic Pro”メニューから“コントロールサーフェス”、そして“デフォルトに戻す”を選択し、実行します。

これで設定完了です。

*デフォルトに戻す操作は、Impact GXをLogic以外のインテグレーション対応DAWを使用した後に、Logicで使用する場合に行う必要があります。



DAW設定ガイド - Logic と Impact GX

インストール、設定を完了したらImpact GXを使用して、Logicで以下の操作が行えます。

下表はLogicの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	ミキサーを開く・閉じる	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
◀◀	巻戻し、1小節または継続	S2	ソフトウェア音源を開く・閉じる	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	早送り、1小節または継続	S3	スマートコントロールを開く・閉じる	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ)オン・オフ	◀ Track	トラック選択一つ前	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止	Track ▶	トラック選択一つ次	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	インストゥルメントパッチ切替:一つ前*	Shift + ▶	アルペジエーターオン・オフ
●	録音	Patch ▶	インストゥルメントパッチ切替:一つ次*	Shift + ●	選択トラックの録音待機

*パッチとはLogicのAUユーザプリセットのことで、最低でも二つ以上プリセットがLogicに保存されている必要があります

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、Logicのミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらノブを操作することで、マスターボリュームを操作します。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

DAW設定ガイド - Mixcraft 7

Impact GX と Acoustica Mixcraft 7 を連動させるには以下の手順に従います：

- ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Nektar Impact GX49-61.csv を展開し、以下の場所に置きます。
c:\ProgramData\Acoustica\Mixcraft\control-surfaces
- Impact GX をコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Mixcraft を起動し、Mixcraft メニューから Mix/MIDI Control Surface で Impact GX がコントロールサーフェスとして表示されているかを確認します。

正しく見えていれば、設定は完了です。

MIXCRAFT の操作

インストール、設定を完了したら Impact GX を使用して、Mixcraft で以下の操作が行えます。

下表は Mixcraft の操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	メトロノームのオン・オフ	S1	アンドゥ(Undo)	Shift + Click	設定なし
◀◀	巻戻し	S2	前のマーカーから再生	Shift + ◀◀	設定なし
▶▶	早送り	S3	次のマーカーから再生	Shift + ▶▶	設定なし
↶	サイクル(ループ)オン・オフ	◀ Track	トラック選択一つ前	Shift + ↶	設定なし
■	停止	Track ▶	トラック選択一つ次	Shift + ■	設定なし
▶	再生	◀ Patch	縮小表示	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	拡大表示	Shift + ●	設定なし

ボリューム操作

ロータリーノブはマスター音量調節に使用します。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

DAW設定ガイド - Reaper

Impact GXはReaperインテグレーションファイルで、バージョン4.59以降のReaperと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。

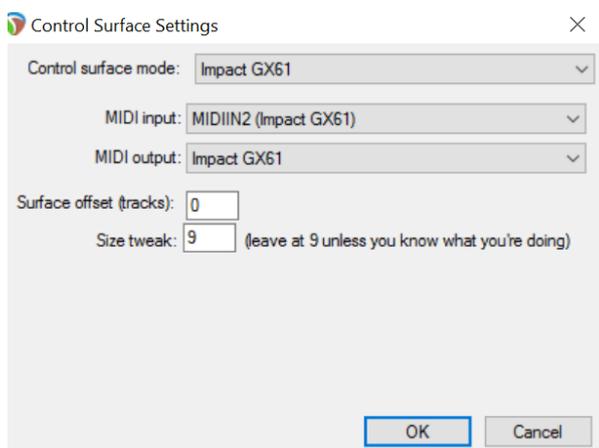
設定

Impact GXとReaperの設定は以下の通りです：

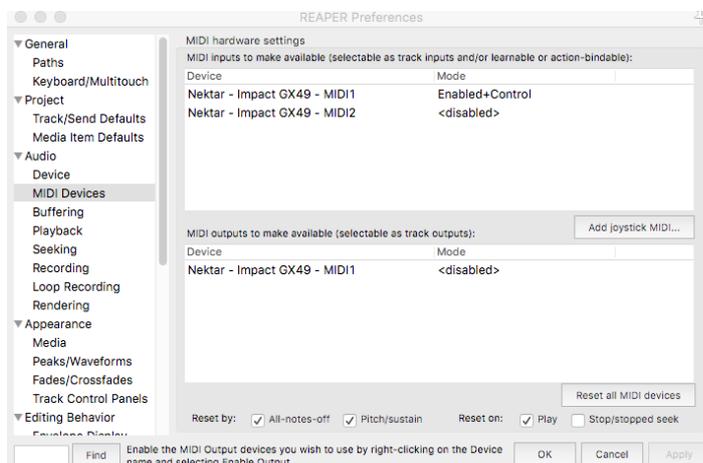
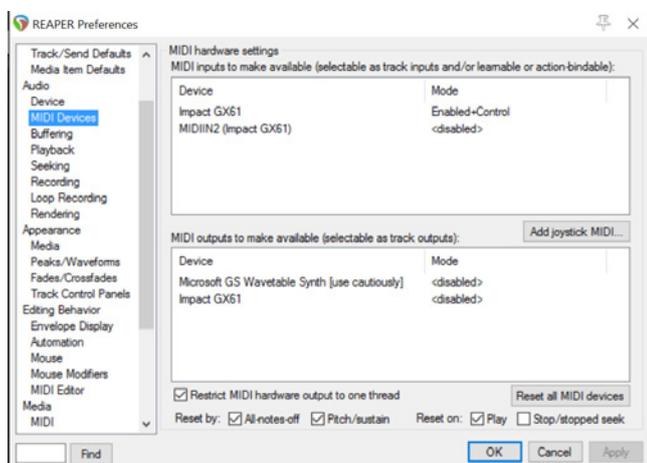
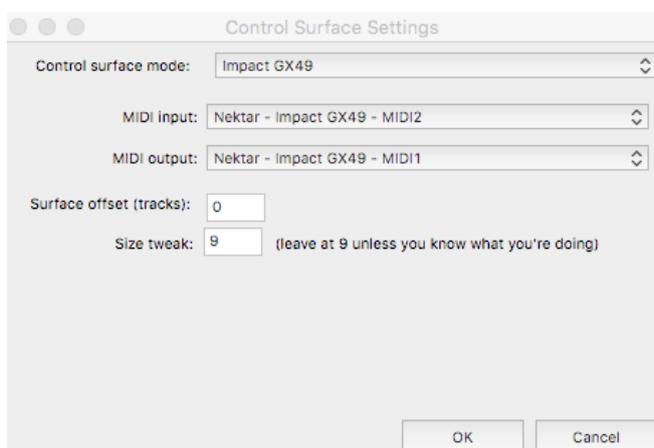
- まず、Reaperのインストールを完了し、最低でも一度起動しておきます。これはReaper自体の動作に必要なファイルをインストールする為の必須作業です。
- 次にReaperを終了した状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GX_Reaper_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact GXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Reaperを起動し、Optionsメニューから、Preferences、おっしてControl Surfacesを開きます。
- “Add”をクリックし、ポップアップ画面でImpactを“Control surface mode”のリストから選び、ReaperがImpactを検知し、ポート類の設定が適切に自動設定されていることを確認し、“OK”をクリックして画面を閉じます。
- 次に Preferences > Audio/MIDI Devicesで、Impactのポート1を有効にします。このモードは“Enable+Control”になっている必要があります。残りのポートはオフにします。
- “Apply”をクリックし、設定を適用します。

画面例のようになっていれば、設定完了です。

Windows



OS X



DAW設定ガイド - Reaper と Impact GX

インストール、設定を完了したらImpact GXを使用して、Reaperで以下の操作が行えます。

下表はReaperの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	ミキサーを開く・閉じる	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
◀◀	巻戻し、1小節または持続	S2	インストゥルメントを開く・閉じる	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	早送り、1小節または持続	S3	チャンネルストリップを開く・閉じる	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ)オン・オフ	◀ Track	トラック選択一つ前	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止	Track ▶	トラック選択一つ次	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	インストゥルメントプリセット切替:一つ前*	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	インストゥルメントプリセット切替:一つ次*	Shift + ●	選択トラックの録音待機(アーム)

* プリセットパッチはReaperのユーザープリセットを使用します。最低でも2つのプリセットをReaperで保存する必要があります。

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、ミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらノブを操作することで、マスターボリュームを操作します。

ソフトテイクオーバー

通常、ミキサーボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプをします。Impact GXではこの現象を防ぐ為にソフトウェアテイクオーバー機能を装備します。このことによって、ノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまでパラメーターに操作が適用されることはありません。

ノブ下の2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーター値がノブポジションと一致しない場合、左右のいずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切替えた場合、LEDの状態はそれに合わせて更新されます。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

DAW設定ガイド - Reason

Impact GXはCubaseインテグレーションファイルで、バージョン5以降のReasonと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。

設定

Impact GXとReasonの設定は以下の通りです：

- Reasonを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GX_Reason_supportのインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- Impact GXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Reasonを起動し、環境設定からコントローラーを開きます。
- “コントローラーを自動設定”をクリックし、しばらく待ちます。
- Reasonのコントローラー画面にImpact GXが表示され、“Reasonで使用する”がチェックされていることを確認します。
- 環境設定画面を閉じて、設定を終了します。

これで設定は完了です。

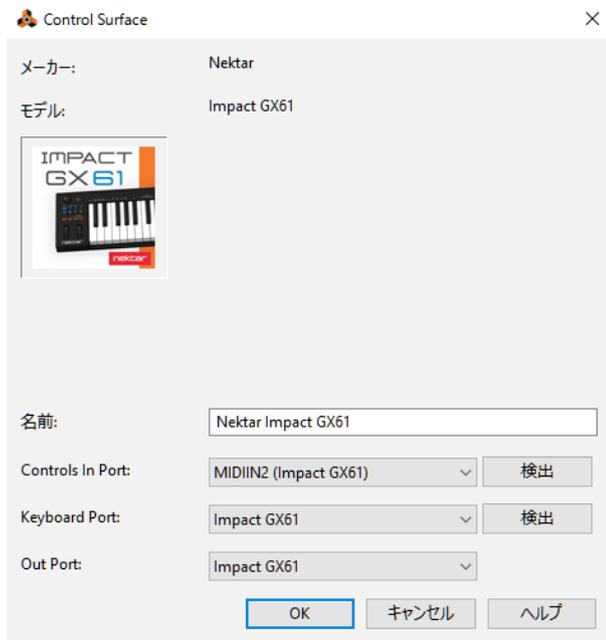


手動設定

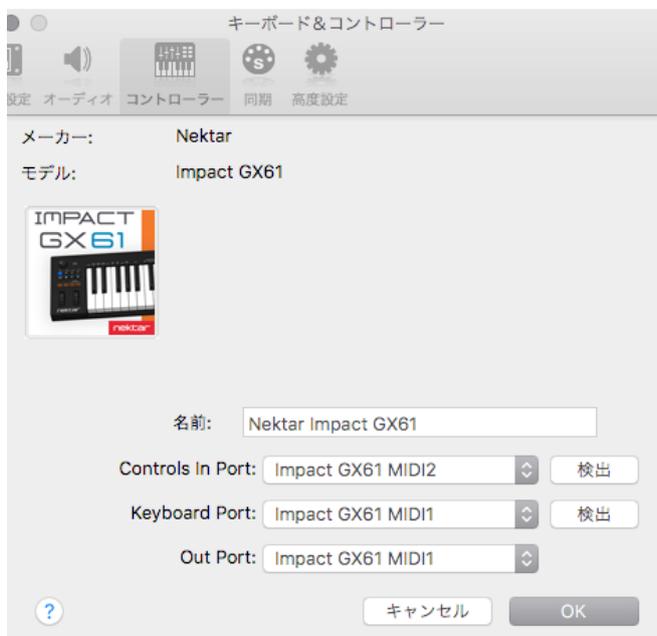
ReasonでImpactのMIDIポートを手動設定をする場合、以下の手順に従います：

- Reasonを起動し、環境設定からコントローラーを開き、“追加”ボタンを押します。
- Impact GXを追加し、画像例の通りにポートを設定します。

Windows



OS X



DAW設定ガイド - Reason と Impact GX

インストール、設定を完了したらImpact GXを使用して、Reasonで以下の操作が行えます。

下表はReasonの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	選択トラックのミュート	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
◀◀	巻戻し、1小節または持続	S2	選択トラックのソロ	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	早送り、1小節または持続	S3	トラックオートメーションオン	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ)オン・オフ	◀ Track	トラック選択一つ上	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止、再操作で左ロケーターに移動	Track ▶	トラック選択一つ下	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	デバイスパッチ切替：一つ前	Shift + ▶	プリカウントオン・オフ
●	録音	Patch ▶	デバイスパッチ切替：一つ次	Shift + ●	録音クオンタイズオン・オフ

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラック上のデバイス音量調節に使用します。

ソフトテイクオーバー

通常、ミキサートラックボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプをします。Impact GXではこの現象を防ぐ為にソフトウェアテイクオーバー機能を装備します。このことによって、ノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまでパラメーターに操作が適用されることはありません。

ノブ下の2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーター値がノブポジションと一致しない場合、左右のいずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切替えた場合、LEDの状態はそれに合わせて更新されます。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

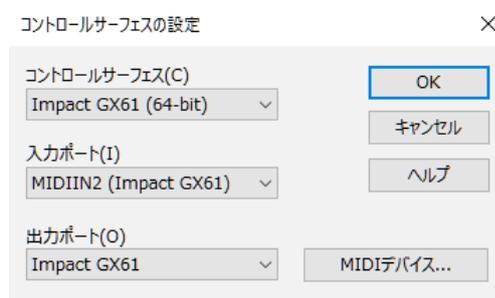
DAW設定ガイド - Sonar

Impact GXはバージョン8.5以降のSonarと連動し、Windows 7以降の環境で動作します。

設定

Impact GXとCakewalk Sonarの設定は以下の通りです：

- Sonarを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル:Impact_GX_Cakewalk_supportのインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- Impact GXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Sonarを起動し、編集 > 環境設定 > MIDIのデバイスをクリックし設定を表示します。
- 入力の項目でIMPACTとMIDIIN2 (IMPACT)、出力の項目でIMPACTにチェックが入っていることを確認し、“適用”ボタンを押します。
- 続けてSonarの (編集 > 環境設定 > MIDIの) コントロールサーフェスをクリックし設定を表示します。
- 画面右上の黄色の星アイコンをクリックし、コントローラー/サーフェス設定画面を開き、次の通りに設定します：
 コントローラー/サーフェス:Impact
 入力ポート:MIDIIN2 (IMPACT)
 出力ポート:IMPACT
- 設定完了したら、OKボタンをクリックして画面を閉じます。
- コントロールサーフェスが正しく設定されると画面のように表示されます。問題なければ“適用”ボタンを押し、そして環境設定画面を閉じます。



これで設定は完了です。



DAW設定ガイド - Sonar と Impact GX

インストール、設定を完了したらImpact GXを使用して、Sonarで以下の操作が行えます。

下表はSonarの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	ミキサーを開く、 二回押しで閉じる	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
◀◀	1小節巻戻し	S2	インストゥルメントを開く 二回押しで閉じる	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	1小節早送り	S3	設定なし	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↶	サイクル(ループ) オン・オフ	◀ Track	トラック選択 一つ前	Shift + ↶	左ロケーターを設定
■	停止	Track ▶	トラック選択 一つ次	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生	◀ Patch	ラック内のインストゥル メント切替:一つ前*	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	ラック内のインストゥル メント切替:一つ次*	Shift + ●	選択トラックの 録音待機(アーム)

*インストゥルメント画面を切替えには、Patchボタンでまずインストゥルメントトラックをナビゲートする必要があります。

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、ミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらノブを操作することで、マスターボリュームを操作します。

ソフトテイクオーバー

通常、Sonarのミキサーボリュームを操作した場合、ノブの位置とソフトウェアのパラメーター値の違いにより、設定値がジャンプをします。Impact GXではこの現象を防ぐ為にソフトウェアテイクオーバー機能を装備します。このことによって、ノブを操作した際、ポジションとパラメーター値が一致するまでパラメーターに操作が適用されることはありません。

ノブ下の2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーター値がノブポジションと一致しない場合、左右のいずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切替えた場合、LEDの状態はそれに合わせて更新されます。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

DAW設定ガイド - Studio One

Impact GXはPresonusインテグレーションファイルで、バージョン3以降のStudio Oneと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。ただし、最新バージョンにアップデートすることをオススメしています。

設定

Impact GXとPresonus Studio Oneの設定は以下の通りです：

- Studio Oneを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル:Impact_GX_Presonus_supportのインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- Impact GXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Studio Oneを起動し、“環境設定”から“外部デバイス設定”を開きます。ここで画面上にImpactのデバイスが2つ見えていれば、“OK”ボタンをクリックします。
- 新しいプロジェクトの作成、または既存のプロジェクトを開きます。
- Impact上の再生ボタンを押してStudio Oneのシーケンスが連動するかどうかを確認します。問題なければ、設定は終了です。



トラブルシューティング:もし、画面上にImpact GXが1つ、あるいは何も無い場合、以下の手順に従って手動で設定をします：

- “環境設定”から“外部デバイス設定”を開きます。
- “追加”ボタンをクリックして手動でデバイスを追加します。
- 画面から見失っている“Impact … Control”と“Impact … Keyboard”をNektarフォルダーから見るけだし、選択の上、OKボタンをクリックします。
- 設定後、“受信元”と“送信先”ポートの設定が以下の通りになっていることを確認します：

OS X環境

Impact LX … Keyboard > 受信元 = IMPACT … Port 1 / 送信先 = IMPACT … Port 1

Impact LX__ Control > 受信元 = IMPACT … Port 2 / 送信先 = なし

Windows 環境

Impact LX … Keyboard > 受信元 = IMPACT … / 送信先 = IMPACT …

Impact LX__ Control > 受信元 = MIDIIN2 (IMPACT …) / 送信先 = なし

- 問題なければ“OK”ボタンをクリックします。

DAW設定ガイド - Studio One と Impact GX

インストール、設定を完了したらImpact GXを使用して、Studio Oneで以下の操作が行えます。

下表はStudio Oneの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		SHIFTボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン・オフ	S1	ミキサーの表示・非表示	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
◀◀	1小節巻戻し	S2	インストゥルメントを開く・閉じる	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	1小節早送り	S3	ブラウザーの表示・非表示	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↶	サイクル(ループ)オン・オフ	◀ Track	トラック選択一つ前	Shift + ↶	左ロケーターを設定
■	停止、再操作で再生	Track ▶	トラック選択一つ次	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	インストゥルメントパッチ切替:一つ前	Shift + ▶	プリカウント
●	録音	Patch ▶	インストゥルメントパッチ切替:一つ次	Shift + ●	クオンタイズモード

ボリューム操作

ロータリーノブは選択されているトラックの音量調節に使用します。

操作をすると、ミキサー上の選択トラックのボリューム設定が連動します。トラックを選択したり、作成したりすると、ノブは自動でそのトラックのボリューム操作に設定されます。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらノブを操作することで、マスターボリュームを操作します。

サポート

問題が発生した場合はお手数ですがサポートまでご連絡お願いいたします。

Nektar DAWインテグレーションを使用しないトランスポート設定

Nektar DAWインテグレーションファイルによって、Impactのトランスポートコントロールは自動でDAWのトランスポートの操作に割り当てられます。もし、ご利用のDAWがこれに対応しない場合、ImpactとDAW側でMIDI Machine Control (MMC) の設定をすることで、トランスポートボタンで操作することが可能です。

以下の操作で、Impact GXはMIDI Machine Control (MMC) 情報を扱うことが可能になります：

- Setupボタンを押し、ボタンのLEDがオレンジ色に点滅していることを確認します。
- Impact GXの鍵盤：A2を押します。
- 数字"3"がラベル印字された鍵盤を押します。
- Enterとラベル印字された鍵盤（右端の"C"）を押して、設定を適用します。

これで、Impact GXは下表の通りのMMC情報を送信することが出来ます：

ボタン	機能
Click	設定なし
<< (Rewind)	巻戻し
>> (Forward)	早送り
Cycle/Loop	設定なし
Stop	停止
Play	再生
Record	録音

DAW設定ガイド - Pro Tools

Avid Pro Toolsでは他のDAWと異なり、インテグレーションファイルを使用しません。Impact GXからトランスポート操作をする場合、Impact GXとProToolsの両方で、MMC設定をします。

Impact GXのMMC設定については、前ページをご覧ください。

Pro Toolsの設定以下の通りです：

- ProToolsを起動し、“設定”メニューから“ペリフェラル”を選択し、MIDIコントローラータブのクリックで設定画面を開きます。
- MIDIコントローラー画面で次の通りに設定します：
 - タイプ = M-Audio Keyboard
 - 受信元 = Impact … MIDI 2 (OSX)、MIDIIN2 (IMPACT …) [エミュレート] (Windows)
 - 送信先 = Impact … MIDI 1 (OSX)、IMPACT … [エミュレート] (Windows)
- 設定を終了したら、“OK”ボタンをクリックして画面を閉じます。

設定を完了すると以下の以降にアクセス出来ます：

トランスポートボタン

- Impactの“Shift”ボタンが点灯していない状態で以下の動作を確認します：
 - クリック：設定なし
 - <<：巻戻し
 - >>：早送り
 - Loop：他のボタンとの併用で追加機能にアクセスします。
 - Stop：停止
 - Play：再生開始
 - Record：録音開始
- ループボタンは次の追加機能にアクセスします：
 - Loop+Play：ループ再生
 - Loop+Record：ループレコーディング
 - Loop+Stop：アンドゥ
 - Loop+RW：プロジェクトの頭に戻る
 - Loop+FF：プロジェクトの終端に移動
 - *メモ：ループボタン自体は何も機能しません。
- Shiftボタンをオンにした場合、ボタンの青色のラベル印字は次の機能をします：
 - S1 (<<)：選択トラックのミュート
 - S2 (>>)：選択トラックのソロ
 - <Track (Loop)：前のトラックを選択
 - Track> (Stop)：次のトラックを選択
 - <Patch (Play)：8トラック分、前にジャンプ
 - Patch> (Record)：8トラック分、後ろにジャンプ

インストゥルメントパラメーターの操作

ImpactのロータリーコントロールでProTools上のインストゥルメントパラメーターを操作出来ます。“ラーン”機能を持つ多くのAIRインストゥルメントやサードパーティプラグインがこれに対応します。

設定例：“XPand 2”プラグインの場合、パラメーターを右クリックし、割当設定を開きます。“Learn CC”を選択し、Impactのコントロールノブを操作します。これで選択したパラメーターの設定が完了し、操作することが出来ます。“ラーン”機能については、ご利用のプラグインのマニュアルに記載していますMIDIコントロール設定の項目をご覧ください。

www.hookup.co.jp

HOOK UP, INC.

日本総輸入代理店株式会社フックアップ
Designed by Nektar Technology, Inc
Made in China

nektar